



森のなかま

2013年7月号
NO. 63 (継続208号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FAX 046-280-4102

平成25年度かながわ森林インストラクターの会通常総会開催 4つの会活動方針を掲げ平成25年度会活動始動！！

< 事務局長 竹島 明 >

平成25年6月16日(日)、特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会通常総会が総勢197名(委任状含む)を得て開催され、「24年度活動報告・決算」「25年度活動計画・予算」そして「役員の選任」を、満場一致で採択して25年度の活動の晴れやかなスタートを切る事ができました。会場は横浜屈指のビューポイントみなとみらいの会議室。水源林パートナー日揮株式会社様のご厚意に感謝申し上げます。

また本総会には公務ご多忙にもかかわらず神奈川県自然環境保全センター森林再生部部長野口様、主事増田様、公益財団法人かながわトラストみどり財団みどり森林課課長内海様のご臨席をいただきました。紙面をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

総会の様子



議事進行役の
柏倉議長



久保理事長



御来賓の方々 左より
県) 自然環境保全センター
森林再生部
部長 野口 様
主事 増田 様
公財) トラストみどり財団
みどり森林課
課長 内海 様

今年度の活動にあたり会が掲げた方針は

- 1、県民参加の森林づくり活動や水源林・森林再生パートナー企業の活動を積極的に支援すると共に参加者から信頼される指導者の育成を目指す。
- 2、県行政およびその関連機関と更なる連携をはかり、水源林の保全・再生に努めると共に、その啓発活動に積極的に参加する。
- 3、財政基盤の充実を図る。
- 4、会の情報を積極的に外部に発信する。

の4項目。これらの方針が、各部・各部会の活動に密接にリンクすることで実効あるものとなります。そして幾つかの分野では既に具体的成果を上げ始めています。今後のさらなる成果が期待されます。

議事終了後、「平成24年度グランドグッスマイスター」ならびに今年度から新設された「平成24年度ネットワーク活動大賞」の表彰が行われ、グランドグッスマイスター11期柴俊男氏、ネットワーク活動大賞第1位9期村井正孝氏、ネットワーク活動大賞第2位7期山崎實氏がそれぞれ表彰されました。

皆様の今後の会活動へのさらなるご支援・ご協力をお願いしまして、通常総会報告と致します。

(写真 広報部 鈴木松弘)

森林部会 25年度

『 枝打ち大会 』

5月19(日) 9時～16時

やどりき水源林新定着活動フィールド(やどりき後沢乗越地区)

< 森林部会 大澤 斗志郎 10期 >

「新緑の山に入り、大勢で枝打ち作業をしましょう！」との呼びかけに17名のインストラクターが集まり、やどりき水源林で「枝打ち大会」が開催されました。

今回の枝打ち大会は、

- ・ 作業経験を積むことで安全への目配りを広げ、自信と気配りに余裕を持つ。
- ・ 植栽後、一度も人の手が入った形跡のない荒れた人工林に、自らの仕事の“証”を残す。
- ・ 立木への固定法も含め、梯子をいつでも使えるように習熟する。
- ・ 作業を楽しみながら、森林への日頃の思い入れを仲間たちと語り合う。そんな趣旨で催されました。



現場に出発前の参加メンバー全員で ※

新緑すがすがしい後沢の流れをぬって30分、尾根に取り付きジグザグ道を登ることしばし、誰もが寡黙になり～来るんじゃないか～と思いつつ、現場に到着。作業前なのに、既に、やったぞ！の気分。

登る、登るで寡黙な皆さん



この地区をフィールドにしている森林部会・新定着活動のメンバーの先導で3グループに分かれ、KYK(危険予知活動)を実施、そして作業開始。



KYK 実施

途中に熊の皮剥ぎ跡



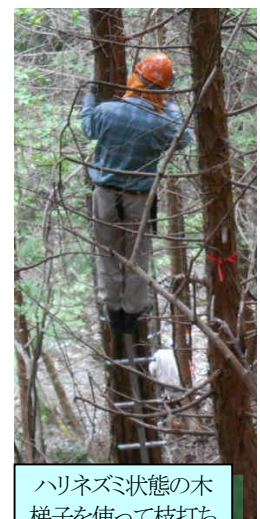
膝くらいの高さからびっしりの枯れ枝、まるでハリネズミ状態の35年生のヒノキ。『生き枝は枝座の頭で、枯れ枝は枝座の元で打つ(切る)』を実践、切り口を確認し、その理由を納得した。

午前・午後3時間余の作業で、0.5haほどのエリアの枝打ちがほぼ完了、森林の中がみちがえるようにスッキリしたことを皆さん実感。

14時から、コーヒー、クッキー、杏仁豆腐のティータイム。佐藤森林部会長が『やどりき300年の森林づくり』のテーマで、新定着活動のメンバーが行っているいろいろな“試み”について熱く語り、併せてインストラクターの皆さん自らの技量向上を目指す“研修の場”として、ここを活用してもらいたいと、締めくくられた。

参加者: インストラクター 17名

L 大澤⑩、菊池①、佐藤恭平①、佐藤武晴⑤、滝澤洋子⑤、有坂⑧、飯澤⑨、内野⑨、酒井⑩、橋本⑩、松永⑩、大橋⑩、柴⑩、吉田⑩、松本⑩、赤崎⑩、石川⑩

ハリネズミ状態の木
梯子を使って枝打ち

平成25年度の全国安全週間は、7月1日～7月7日です。
「高めよう一人ひとりの安全意識 みんなの力でゼロ災害」

(写真: ※ 通りがかりの登山者の方、佐藤 武晴 氏⑤、松本 保⑩ (広報))

自然観察部会

森林探訪『風薫る震生湖と里山林へ』

参加者71名(申し込み78名) 5月18日(土)、曇り/晴れ

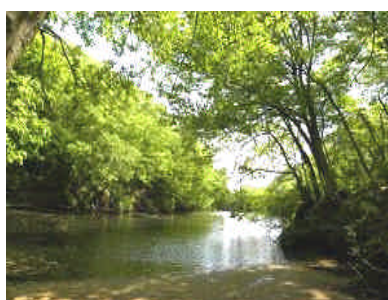
< 自然観察部会 内野 ミドリ 9期 >

今回の森林探訪は(公財)かながわトラストみどり財団との共催による渋沢丘陵でした。丘陵上には、雑木林と段々畑が広がり江戸時代から続いた農村生活の中で築かれた里地・里山の景観や面影を残しています。参加された方々に、新緑の美しい里山林で五感を働かせて自然を満喫していただけるようにと丁寧な下見を2回おこない本番に備えました。

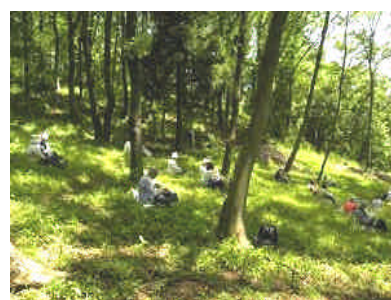
インストラクターのメンバーは、季節と同じように若手(期)が多く、絶好の森林探訪日和に恵まれて、爽やかな森林探訪となりました。

秦野駅改札9時集合ですが、参加の皆さんも早くからお集まりで出足も好調です。今回は8班編成で、受付の時点で班を伝え資料を配布しました。天気が良かったので欠席者が少なく、各班7~10名でした。オリエンテーション後は、解散まで班行動です。各班のインストラクターはオリジナルの資料を携えて案内開始です。主な観察ポイントは、秦野の湧水群、道祖神群、白笹稻荷神社、いずれも昔から暮らしに密着している所です。白笹稻荷神社の広い境内には、カゴノキ、ニッケイ、などの余り馴染みのない木がありました。

震生湖へ向かう途中、畑の中の道を進むと丹沢の山々が眺められました。大正12年の関東大震災のとき、川がせき止められてできた震生湖は、新緑の中にあり渡る風は心地良かったです。湖畔を約半周して、手入れされた里山林「環境高木林」の中で昼食です。

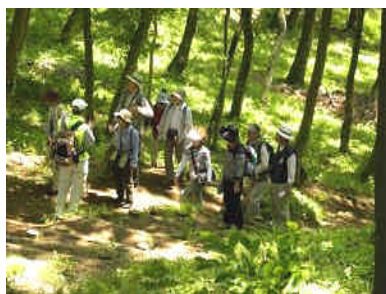


新緑の震生湖



里山林(環境高木林)の中で昼食

昼食後は、渋沢丘陵を歩きました。雑木林の続く気持ちの良いところです。小鳥のさえずりを聞き、爽やかな風を感じ、クワの実やキイチゴを味わい、葉の香りを楽しみ、五感を十分働かせた森林探訪でした。コース、時間等も丁度良かったようで、予定通り15時に渋沢駅近くで解散しました。皆様お疲れ様でした。



里山林について説明



渋沢丘陵に行く



段々畑から見える秦野の街と丹沢の山々

スタッフ

(公財) かながわトラストみどり財団 みどり企画課 窪田課長様、中村様、看護師 青木様

インストラクター 12名 L内野⑨、黒澤⑧、野田⑧、小林⑩、一重⑪、大塚⑪、上宮田⑪、鳥飼⑪、山口⑪、松永⑪、赤崎⑫、小池⑫



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

私の認識

野鳥その111

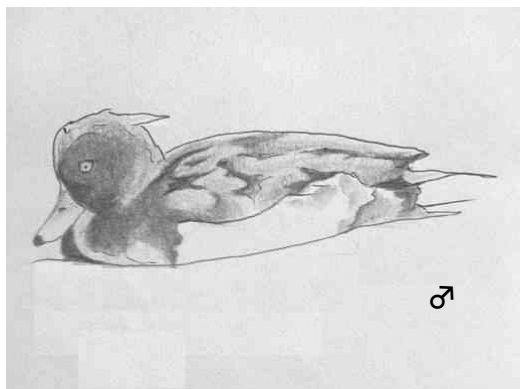
高橋 恒通

今月から海ガモ類についてご案内します。

そのトップバッターは冬鳥ですが北海道の一部では少数が繁殖するキンクロハジロ(漢和名:金黒羽白、英名:Tufted Duck、体長L=40 cm)です。

英名の Tufted とは“房になった飾り”と言う意味ですし、Duck とは“カモ、アヒル、そして、ひょいと水に潜る”との意味もありますので、Tufted Duck を直訳すると「房になった飾りのついた鴨」となるのでは…

キンクロハジロ成鳥♂の体色は、先端が黒色でその他は鉛色の嘴、頭部から頸まではが光線の加減で紫色の金属光沢を見せる黒色、胸前から背面全体と尾羽まで黒色、脇腹が白色、後頭部から黒色の房になった冠羽があります。即ち英名の命名根拠がこの房になった冠羽(飾り)だと私は認識しております。また漢和名の“金黒羽白”は、虹彩の金色、背面の黒色、脇腹の白色が根拠となっている事が誰にでも分かります。



一方、成鳥♀は♂の如き脇腹の白色は無く灰色混じりの褐色、黒色の後頭部に短い房が申し訳程度についています。虹彩の金色、鉛色の嘴は♂と同じですが、嘴の付け根の部分に白色の羽毛があり、これが妙なポイントになっています。

棲息環境は湖沼、池、河川、港や内湾などですが、“海ガモ”にも拘らず何故か、キンクロは海水と無縁の内陸淡水域でも多数の集団に逢えると私は勝手に認識しております。

行動様式は、一般のカモ類と同様に日中は休息状態にいる事が多く、夕方になると餌のある処へ飛

んで行き、潜水し貝類や甲殻類、水生昆虫類などの外、水草なども採食しますし、場所によっては近所の住民が与えるパンの耳などもよく食べます。

私がよく孫を連れて散歩に出かける場所に“谷戸公園”という溜池のある小さな公園が鎌倉市玉縄^{タマナヅ}に在り、こゝで毎年20~30羽のキンクロハジロが越冬しています。そこでは時々、近所のお年寄や幼児連れの母親が、パンの耳などを与えている場面に遭遇します。その餌が撒かれるたび、先を争い貪る様に採食する姿を観ていると、私は胸が締めつけられて暗い気持ちになります。何故なら、常に厳しい飢餓状態に置かれ越冬してい乍ら、春が来て2千キロを超える北帰行が無事にできるか否かが心配だからなのです。

所で、県下でキンクロハジロの群を毎年確実に、双眼鏡も必要ない程の至近距離から観察できる場所は相模原貯水池です。然も池の東南の角は、何故か毎年キンクロハジロの集合場所です。私の認識ではこの数年は全く変わっていないからです。

キンクロハジロをじっくり観察するのでしたら是非とも相模原貯水池の東南の角に出かけてみて下さい。水面を泳ぎ回る姿、ヒョイと潜水する仕草、後頭部の房状冠羽の愛嬌ある姿、金色の虹彩、誰もが癒される事は請合いです。尚、相模原貯水池以外でキンクロに逢える処は、日本野鳥の会が毎年行う“全国一斉ガンカモ調査 2013 年度”の集計結果では、三ツ池公園、長浜池、三溪園、芦ノ湖、長浦港、並木船だまり、帷子川(天王橋~新幹線ガード下)、多摩川河口、横浜港最奥部、鶴見川(潮鶴橋~河口)です。ご参考まで。

(参考資料)

◎日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑 7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社

◎日本の野鳥、山溪カラー名鑑、編・高野伸二、解説・浜口哲一、森岡照明、叶内拓哉、蒲谷鶴彦、山と溪谷社

◎日本野鳥の会 神奈川支部 2013 年度ガンカモ調査集計表

◎ (イラスト) 広報部 大塚 晴子

森林文化部会 『柿渋のための作品作り体験教室(森林文化部会)』

ボーノ相模大野ユニコムプラザさがみはら に於いて 6月1日(土)9時～14時

<森林文化部会 部会長 井出 恒夫 1期 >

昨年は『柿渋』の第一弾として、渋柿から汁液を絞り出し、容器に入れて持ち帰るところまで実施しました。
(現在各自宅で熟成中)

今年はいよいよ柿渋のための作品作りです。
作るものは、一閑張り^①と竹の容器の2種類です。

(1) 一閑張りのための和紙の貼り付け

先ず下張りとして、半紙を手で適当な大きさにちぎり、用意した竹かご^②に糊付けます。2～3時間乾かした後、上張りとして古い書付等文字入りの和紙を張り付けました。

和紙の貼り付け



竹の容器の加工

(2) 竹の容器

底面側に節の部分を残して、適当な長さに切断します。表皮には柿渋がしみ込みにくいので、ナタで多面体(8面体、12面体など)になるようそぎ落とし、容器を作成しました。一閑張り、竹の容器など皆さん個性豊かな作品が出来ましたので、柿渋を塗って完成するのが楽しみです。

柿渋塗布作業は9月7日(土)に実施します。和紙の張り方など、作り方はご案内しますので、今回参加できなかった方も是非ご参加ください。



参加の皆さん

参加者：井出①、米本②、落合③、大道⑥、生田⑥、武者⑦、白畑⑦、内野⑨、福島⑨、
中元⑩、小笠原⑩、上宮田⑪、渡辺(敏)⑫

活動短信



今回の掲載 4/24 ～ 6/1

投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。
予めご了承下さい。

◆ 21世紀の森 竹林整備 (株)カナエル

日 4月24日(水) 9:30～12:30、雨

場 21世紀の森 マダケ展示林

参 カナエル社員21名

イ L 阿部⑧、大道⑥

カナエルにとり、昨年秋に引き続き二回目の「21世紀の森」マダケ展示林の整備活動。昼頃から雨という天気予報がはずれ、開始時の9時半には小雨がポロポロと降ってきた。ただ小雨ですんだので、簡単なタケの説明・注意事項・準備体操後2班に分かれ展示林のマダケの整備を開始。一昨年の台風で倒れたタケを昨年整理したはずだが、それでもこの冬の雪のためか、かなりのタケが倒れており、まずはこの整理作業。小一時間ほどしたところで雨足が早くなり、一旦休憩。雨の様

子を見たが、明神岳が隠れるほどに雲が出てきたので竹林整備作業は断念し、「21世紀の森」のほうで用意して下さった木工作業(ヒノキの箸作り)に切り替える。

短時間ではあったが竹林整備体験ができ、その後、各自でヒノキの箸を作ることができ、それなりの満足感をもっていただき、皆さん昼食に向かわれた。雨の日でも、他の作業に切り替えることができる「21世紀の森」の環境は素晴らしいし、対応して頂いた所長を初め「21世紀の森」の方々には感謝致します。

(記 阿部 純一 8期)

◆ 新入社員研修(間伐体験) 鈴廣

日 5月8日(水) 9:00～13:00、晴れ

場 やどりき水源林鈴廣パートナー林

参 鈴廣 新入社員&スタッフ 21名

【県】 齊藤課長

【イ】 L 飯澤⑨、加藤⑥、阿部⑧

鈴廣の社会貢献活動として行っている「恵水の森」の保全活動を通し、水を育む森の大切さを考えて貰う事を目的に新入社員研修を行った。やどりき水源林、間伐作業の進め方、注意点について説明し、参加者を班分けして現地に行った。作業手順を説明しながら伐倒、枝打ち、玉切りをした後コースターや鍋敷きを作ってお土産にした。事前に注意をしたのですが、1名がヒルの洗礼を受けてしまった。その手当後、加藤さん、阿部さんが日本の人工林の現状、間伐の必要性についてと生活に如何に木が浸透しているかを木編の漢字を参加者に挙げて貰いながら説明した。参加者はメモを取りながら熱心に聞いていた。次のバーベキュー会場へマイクロバスで移動するのを見送る我々に全員が手を振っているのが見えた。

(記 飯澤 恒 9期)

◆ 高校生による奉仕活動(植樹)

【日】 5月10日(金)13:00～15:00、晴れ

【場】 相模原市緑区鳥屋(鳥居原園地)

【参】 都立桜町高校 281名

【スタッフ】 (公財)宮ヶ瀬ダム周辺興財団 理事森田様、他5名

【イ】 L小沢⑨、島岡③、齊藤⑥、柴⑪

今年一番の暑さのなか、都立桜町高校一年生281名7組でドウダンツツジ(灯台躑躅140株の植樹を行なった。インストラクターによる植栽手順のレクチャーを各班長に行ない各班役割分担に分かれスムーズに鳥居原園地ひな段中央に植樹を行なった。植樹時に出た、ガラ、ススキの根等は袋に入れ回収した。ひな段から見る風景に生徒達は歓声をあげていた。秋の紅葉の時季も美しい事を話した。今回で桜町高校は5回目の植樹との事で振興財団より表彰状が送られた。植樹が良い思い出になればと思った。

(記 柴 俊男 11期)

◆ 「山菜採りと天ぷら・ヨモギ団子づくり」

【日】 5月11日(土)9:00～13:00、雨

【場】 小田原いこいの森

【参】 30名 (大人22名、子供8名)

【スタッフ】 小田原森林組合2名

【イ】 L村井⑨、渡部⑦、小沢⑨、大塚⑪

生憎の雨の中、親子連れを中心に集まり、参加者は

カップや傘を手に、山菜摘みを楽しみました。散策は植物観察しながら、ウバユリ・よもぎ・ハナイカダ・ミツバ・モミジガサ・サンショウ・ノビル・ノブキなど林道で摘み、炊事場に戻ってヨモギ団子と天婦羅をつくりました。参加者は身近な野草が食べられると驚きつつ大満足してもらえ、雨に負けない位楽しい会となりました。

(記 大塚 晴子 11期)

◆ アサヒビール神奈川工場 鮮度実感バスツアー

【日】 5月12日(日)10:30～13:30、晴れ

【場】 県立21世紀の森

【参】 大人80名

【スタッフ】 (株)テレビ神奈川 富樫吉樹様他約10名

【イ】 L小沢⑨、杉崎⑩、松本⑧

テレビ神奈川主催のバスツアーに、インストラクターとして参加。県立21世紀の森を散策する組と、クラフト製作組の2班に分かれ実施されました。その後ビール工場を見学するスケジュール。そのためか、参加者は若いカップル、中年の夫妻、友達同士等々の成人80名でした。森林館会議室で、所長の御挨拶の後、活動に移りました。クラフト製作は、台座に部材を張り付けるクラフトで、感性豊かな作品が出来上がっていました。

森林散策は、森林館を出発し、林間広場からふれあいセンターまでの散策コースです。林間広場では、豊かな森林の向こうに足柄平野、酒匂川、相模湾が見え、その展望のすばらしさに、「ウォー」と歓声が上がりました。美味しい空気を吸い、スギ、ヒノキの違いを確認し、カツラの香りに浸り、鳥の声を聞き、ケモノ道を見たりと初夏の一時を楽しまれたようでした。ヒヤリハットも無く、参加者は次の目的地のビール工場へと向かいました。

(記 松本 洋子 8期)

◆ 森林癒し体験と森林保全活動 槐の会

【日】 5月19日(日)10:00～15:00、曇り時々晴れ

【場】 やどりき水源林

【参】 槐の会73名(申込み98名)

【スタッフ】 槐の会事務局 當麻事務局長様ほか10名

【県】 後藤様、坂井様

【イ】 L草野⑧、宮本④、高崎④、森本⑤、高橋⑨、宮下⑩、時田⑩、福島⑪、山下⑪、安井⑫、岡田(華)⑫

心配されたお天気も、爽やかな絶好の活動日和となりました。参加者はバス、乗用車などで予定時間には

現地入り、挨拶・ストレッチと順調に進み、活動予定の10時15分には活動開始。

(午前) ①延寿の森といやしの森の2班に分かれての間伐は担当インストラクターによる目的・方法などの説明の後、参加者により実施された。当初の狙い通りの方向にゆっくり倒れ拍手と歓声があがった。そのあと、運搬路まで運び出した。②林内整備も同じように2班に分かれ、それぞれアニマルヘッジづくり・経路づくり・トリカルネット補修などに取り組んだ。③土留め用の杭づくりは、間伐材の先端をノコで三角に尖らせるハードな作業であったが、大汗をかきながらも交代で作業し、後日の使用に備えて予定本数をこなしていただいた。

(午後) 山の癒し班と水辺の癒し班に分かれての活動になった。

①山の癒し体験

延寿の森での樹冠の揺らぎ・緑のグラデーション・呼吸法・ハンモック体験しながら癒しコースを学習しないで、ゆったり・のんびり散策していただいた。

②水辺の癒し体験 水生生物観察で水辺での遊びを楽しんだ後、滝郷の滝での呼吸法・ハンモック・緑のグラデーションなどを体験して頂いた。

毎年、パートナー林の保全活動の企画を頂いている槐の会の皆様に感謝し、今後もやどりき水源林の整備に微力ながら努力していきたい。

(記 草野 弘 8期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>



◆ 環境学習 茅ヶ崎市立松浪中学校

○ (事前学習)

日 5月14日(火) 13:30～15:30

場 茅ヶ崎市立松浪中学校体育館

参 中学2年172名(生徒166名・教職員 6名)

イ L 柏倉④

「かながわの森林を知ろう」(森林を守り、育てることの意味について考える)

パワーポイントで映像をもとに標記の演題について講話を行う。講話内容の柱は以下の通り。

神奈川の空を上から見て、森林の意味と土地利用図か

ら見た森林、森林の働きと保安林について、森林の成り立ちと森林生態系について、かながわの森林の様子、森林を守り育てる仕事、今私たちにできること、地域に根ざした森林ボランティア活動

上記の項目について、生徒の興味と関心を喚起し積極的に意見を述べられる学習にしたいという目的で、10問のクイズを導入時に投げかけて本題に入る展開とした。最後に、間伐の実際について実物をもとに説明を行って理解を深めた。

後日いただいた「環境学習講演会：生徒感想文集」では、森林の働きやその大切さ、育林作業の欠かせない取り組み等について全員の生徒が理解を示す表現が見られ何よりであった。

○ (間伐体験)

日 5月22日(水) 10:00～12:00、曇り

場 相模原市緑区長竹承継林

参 中学2年176名(生徒166名・教職員10名)

財 古館様、初山様

イ L 柏倉④、鈴木友③、国分③、宮本④、佐藤⑤、伊藤⑦、小野⑦、塩谷⑦、武者⑦、渡部⑦、阿部⑧、有坂⑧、鈴木敏⑧、野牛⑧、飯澤⑨、内野⑨、小沢⑨、村井⑨、大澤⑩、松本⑪、西出⑫ 計 21 名

30年生の成長の遅い杉の間伐で、生徒166人を20班にわけての作業を行い、怪我もなく無事に終えることができた。予定時間より30分程超過し、間伐予定の杉を2本やり残してしましたが、事前学習での期待感も満たされ、それなりに達成感を実感できたようであった。(ヒルの被害生徒3名) 今後の検討課題として以下の4点を挙げておきたい。

1、道具の不足 区割りと班編制をどのように考えるか(10区画に20の班:1班は8～9名)

1区画に2つの班を配置し、1区画に間伐鋸1・ロープ1であった。各インストラクターによる臨機応変な作業ができなかった。

2、間伐木につけた番号の不統一

ガムテープを貼り番号記載されたが番号の付け方が(1、②、2-3班)のように不揃いで分かりにくかった。番号は必要なかったと思われる。

3、リーダーの全体掌握の難しさと不徹底に加え、インストラクター相互の連絡も密にできなかった。

4、班編成がクラスを解体して1班8～9名という急造班

となり、危険を伴う間伐作業で声を掛け合い力を合わせて取り組むという事は難しいように思われた。

後日談) 学校長より「生徒達とともに教職員にも大変好評でした。来年もぜひ実施したいと思っています。」

(記 柏倉 紘 4期)

◆ 「ヒノキの間伐と自然観察会」(株)荏原製作所

日 5月25日(土)10:00~15:00、晴れ

場 やどりき水源林

参 社員と家族27名(大人16名、子供11名)

スタッフ 荏原製作所 岡野様、岩崎様、阿部様

看 迫間様

県 武田様

イ L坂齋⑦、宮本④、小沢⑨、上宮田⑩

水源林パートナーとして森林再生事業にご尽力頂いている荏原製作所の社員とそこそご家族の皆様と活動いたしました。10時に水源林にあつまり 開会式 簡単な体操後、午前中はヒノキの間伐(大人5名)のグループと自然観察(22名)のグループに分かれての活動です。間伐の大人グループは安全を第一に 午後からの丸太切りに備えお手頃なヒノキを間伐、運搬まで事故なく完了。自然観察のグループは一日の安全確認をし滝見物に出かけ皆が飲んでる水について考える時間を持ちました。その後 2つのグループに分かれ林道コースで観察会です。観察の途中では小さなお子様は泣きだす姿も見られましたが「葛のシャボン玉」の力をかりると見事に笑顔になりました。昼食をはさみ 10分ほど水源林」についてのご案内をし午後 大人グループ(5名)は自然観察です。今が旬のウツギの花々 ハリギリに目を奪われます。親子グループは水生生物の観察と丸太切りです。水生生物観察ではカジカガエルとその卵も見つかり宮本さん準備の「カジカガエルの声」に一同感動しきりです。岡野さん、スタッフの方 看護師の方 県の武田さんには随所で子供たちのお手伝いをいただき、待つことなく 丸太切りにも何度も挑戦できました。ぴかぴかにやすりをかけ 焼印をし 大満足で終了です。大人参加者のチームワークと優しさを一杯感じた一日でした。

(記 上宮田 幸恵 11期)

◆ 森林癒しと林内整備 神奈川トヨタプリウス森木会

日 6月1日(土)、晴れのち曇り・6月2日(日)、晴れ

場 やどりき水源林

参 1日 35名、2日 25名

スタッフ 神奈川トヨタ 黒澤様、佐藤様 看 萩原様

県 1日 後藤様、増田様、2日 十鳥様、武田様

イ 1日 L福島⑪、高崎④、草野⑧、若林⑧、
時田⑩、一重⑪、岡田(華)⑫

2日 L福島⑪、高崎④、草野⑧、若林⑧、
一重⑪、安井⑫、岡田(華)⑫

「緑のダム作りと森林癒し体験」のテーマで、土留め柵・経路作りと森林癒し体験を午前・午後とグループ交代で実施した。癒し体験では、滝のそばで深呼吸、寝ころんで樹冠のゆらぎ体験、初夏に向けて青々しく葉を茂らせた木々から「色んな緑を見つけよう」と観察、ハンモック体験、木の枝を伝わる小川のせせらぎ音、と参加者には初体験ばかり。クロモジの香りを気に入って、移動後も葉をずっと握りしめているお子さんも見られた。整備体験では間伐材集めから杭作り、整地まで作業頂いた。お子さんがひたむきに作業する姿に周りも思わず声援するなど終始和やかな雰囲気。数回の抽選でやっと参加が叶った、という方が多いが、貴重な体験に大満足していただけた様子でこちらもほっとする。今回利用した一部の杭は鶴岡八幡宮「槐の会」の活動の際に削って頂いたもの。事前に計画していたわけではなかったがパートナー間のコラボ実現は喜ばしい出来事であった。

(記 岡田 華奈子 12期)

◆ 県民参加の森林づくり(入門コース) 下刈り

日 6月1日(土)8:30~14:30、曇り

場 山北町谷峨

参 47人(募集50人)

財 豊丸様、鳥海様 看 青木様

イ L山下⑪、米山④、伊藤⑦、黒澤⑧、

波多野⑨、村井⑨、柴⑪、大塚⑪、湯浅⑪

新松田に集合し、バスで谷峨駅前へ。駅前広場で山下リーダーから参加者に諸注意。そこから15分ほど上り、4班に分かれて背丈ほどに伸びた草の中に入る。各班リーダーの指導の下、初めての人も次第に手つきが良くなって刈り取るスピードが上がり、隠れていたコナラやケヤキがしっかり姿を見せてくれる。2時間ほどで予定地の下草はすっかり刈り取られ、満足できる出来映えに。力を持て余したベテラン組は、予定地の上へ進出して下刈りを続けた。ハチ刺され1件のほかはアクシデントもなく、入門編としてはまずまず充実した

半日だった。大野山を見ながら昼食を取った後は、講話で井伊さんと川俣さんから水源の森の大切さや林業経営の厳しさを聞いた。

(記 湯浅 鉄男 11期)

◆ 横浜市立小山台小学校

愛川体験学習2日目 自然散策

- 日 6月1日(土)、晴れ
 場 愛川ふれあいの村内 自然観察コース
 参 小学4年、5年生各1クラス 計61名、教師6名
 イ L 渡部⑦、増子③、出口④、塩谷⑦、小林⑨、西出⑫

愛川の自然環境に触れことにより動植物に対しての興味を引出し、班行動により協調性と自主性を育成することを目的として体験学習を実施した。

予定の10時オリエンテーション開始、生徒達が全員のインストラクターの顔と名前を覚えていてくれたことに驚かされる。下見の時に担当の先生が私たち全員をカメラに記録していたことを思い出す。



4年生5年生混合の6班に分かれ観察会(木ラリー)がスタート。生徒達が木ラリーマップに記された12種の樹木番号を基に、自分達で効率の良いコースを考え、樹木の名前と番号をラリーマップに記入するゲーム形式をとった。インストは、生徒達の自主性を尊重し状況に応じ適切なヒントを与えるだけに留める。

いつの間にか村内には、生徒達の元気な声が満ち溢れる。そしてリーダーシップをとる者、4年生の面影を見る5年生、小さな昆虫をいち早く見つける者、そしてマップを読むのが上手な者と自然に役割分担が出来上がって行く様子が良く判る。定刻の12時には全員元気にゴール、この後インストを交え賑やかに楽しい昼食をとり、生徒さん達の振る可愛い手に見送られてふれあいの村を後にした。

(記 小林 保喜 9期)

◆25年度川崎市里山ボランティア育成講座・第1回

- 日 平成25年6月1日(土)、晴れ
 場 等々力緑地(川崎市中原区)
 参 一般市民 33名(男27名 女6名)

スタッフ 川崎市公園緑地協会・川崎緑レンジャ等7名

イ L 松崎⑤、清水⑧ 山崎⑫ 門沢⑫

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズ平成25年度の第一回目。このシリーズは、川崎市が緑行政の一環として市内の里山整備を進めていく市民ボランティアリーダーの育成のために展開しているもの。午前中は初めに「川崎市の緑の基本計画」について市建設緑政局の小部氏が講義し、続いて「ボランティアの心得」について川崎市民活動センターの小倉氏が講義を行った。午後は参加者が3班に別れ、「樹木の伐採、後処理、下草刈、道具の手入れ」の実習を行った。森林インストラクターは各班に付いて指導を行った。第二回は6月22日に救急救命講習・竹林整備の実習を行う予定。

(記 松崎 龍之介 5期)

◆ 下草刈りと講話 (株)伯東

- 日 6月1日(土) 10:00~13:30、曇り
 場 南足柄市塚原(塚原ボランティアフィールド)
 参 株式会社伯東社員 12名
 イ L 小野⑦

伯東グループの第3回森林活動として上記ヤードで下刈作業を実施した。当日はうす曇で気温25度程度、現地の傾斜も緩く下刈作業としては割合好条件に恵まれた。現地ではクサイチゴが沢山あり食べ頃で、稀にあるモミジイチゴとの味比べも楽しめ貴重な体験が出来た。参加人員が12名と少なく担当区画の一部が残ったが参加者の疲労度(自己申告)も慮って少し早目に作業を終了した。

昼食後の森林講話として日本の森林の荒廃とその要因について昭和30年代以降の拡大造林政策や輸入自由化による材価の低迷等に関し諸物価との比較数値を絡めて説明、又林業を経営面から見た時の投資→回収の期間(50年以上)の長さについては企業人として認識を新たにしようである。全員事故も無く終了し定刻前の現地解散となった。

(記 小野 幸広 7期)

略語の説明

- 日：日付、 場：場所、 参：参加者、
 県：(神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)
 財：((公財)かながわトラストみどり財団)
 スタッフ：例 小田原市森林組合・XX様
 例 川崎市公園緑地協会・XX様
 看：看護師、 イ：インストラクター (○数字：期)

やどりき水源林 ミニガイド

6月のトピックス

色んなウツギ(空木)の花が咲きました。



(寄大橋 と ウツギ 6月4日撮影)

7月の水源林

川遊びに絶好の季節です。綺麗な川で遊べますよ。水生生物もいます。蛙のカジカ、魚のカジカに会えるかも。美しい鳥のさえずりも聞けますよ。

「森の案内人」情報

案内人も張り切ってお待ちしています!!

●実施時間:毎週土曜・日曜・

午前10時・午後1時、1~2時間程度

●集 合:水源林入口ゲート前

●内 容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ:(公財)かながわトラス
みどり財団 TEL:045-412-2255
携帯:090-8580-5348
FAX:045-412-2300

●ホームページ:<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35 分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

「やどりき水源林のつどい」が開催

参加者募集!夏休みの思い出を水源林で!!

開催日:平成25年8月17日(土)

場所:やどりき水源林(足柄上郡松田町寄)

やどりき水源林まで新松田駅から専用バスで送迎
9時集合

主催:県民との協働による森林づくり実行委員会

【申込方法・問合せ先】

ハガキに行事名、住所、電話番号、参加者全員の氏名を記入のうえ、(公財)かながわトラスみどり財団 横浜市区岡野 2-12-20 Tel045-412-2255 まで

【申し込み締め切り】7月31日(土)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉 2-1-50

Tel: 090-6150-6173

Mail: s.akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町 3-7

Tel/Fax: 046-825-9281

Mail: 2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

松田付近のイベント情報



・寒神社例祭のお祓ぎ(みそぎ)

7月31日

寒神社境内、十文字橋周辺

山や散策の

お帰りにお越しくださいませ。

山 麓 の オ ア シ ス ②

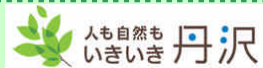
～ お 食 事 処 ～

(冷たいお飲み物もお待ちです)

こ ま ち

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店



丹沢の自然再生に取り組む

丹沢大山自然再生委員会ホームページでご覧ください。

<http://www.tanzawasaisei.jp/>

編集後記

★職場のそばで見かけたカワラヒワのペアが、4羽になっていました。

羽の色がちょっと薄いのは、ヒナのようです。微笑ましい初夏の出来事でした。(赤崎)

★環境月間の今月は、古い傘からリュックカバーとスパッツを作ってみました! 防水スプレーで仕上げたから、今から雨の日が楽しみです♪(大塚)

★小学生の案内を初めてさせていただき、小学生の新鮮な感受性と元気さにとても勉強させられました。(水口)

★13期生の話題もちらほら聞くようになりました。そこで提案が有ります、1期~4期の方で教育終了時にベストを支給されたと思います。そのベストが有りましたら会に提供して頂けませんか! 現役のインストがそのベストを着て会の初心に思いをはせるのは如何でしょうか!!(小沢)

★梅雨だというのに雨が少なく、生態系への影響がとても心配です。(松本)

* 真貝さん——転勤(宮崎)
* 徳岡さん——療養中
で、今月から11期の川森さんと谷川さんに発送の支援をお願い致しました。

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。郵便振替口座 00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保
事務局: 竹島 明
広報部: 小沢章男 水口俊則
真貝 勝 鈴木 朗
鈴木松弘 大塚晴子
徳岡達郎
加藤愛子 赤崎さほり